令和６年度　現職教育全体計画

南相馬市立鹿島小学校

１　研究主題

【福島県小学校教育研究会　研究主題】

自他との対話を通して、物事を多面的・多角的に考え、自己を見つめて、自己の生き方についての考えを深め、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度をはぐくむ授業の充実

【本校研究主題・副主題】

道徳科において自他との関わりの中で自己を見つめ、道徳性をはぐくむ授業 ～　自己を見つめ、伝え合い、よりよく生きようとする子どもの育成を目指して～

２　主題設定の理由

（1）今日的課題から

道徳科では、人々が互いに尊重して、社会を形作っていく上で求められるルールやマナーを学び、規範意識をはぐくむとともに、人としてよりよく生きる上で大切なものは何か、自分は　どのように生きるべきかを時には悩み葛藤しつつ、考えを深め、自らの生き方を育んでいくことが求められる。また、昨今のグローバル化や科学技術の発展の中で、様々な文化や価値観をもった人々と相互に尊重し合いながら、人間の幸福と調和的な実現を図ることが課題となってきている。今後を担う児童一人一人が高い倫理観をもち、多様な価値観の存在を認識しつつ、自ら感じ、考え、他者と対話しながら、協働的によりよい方向を目指すといった資質・能力を備えることが必要不可欠である。しかし、昨今の道徳授業では、読み物の登場人物の心情理解に偏った指導が行われているといった多くの課題が浮き彫りとなってきている。道徳教育は、児童の人格基盤となる道徳性を養う重要な役割があると鑑みれば、その改善・充実に取り組んでいく必要がある。いじめ問題への対応の充実や発達段階を一層踏まえた体系的な指導の充実を図る観点から、問題解決的な学習を取り入れるなどの指導法の工夫を図ることも大事である。答えが一つではない道徳的な課題を自分自身の問題と捉え、向き合い、考え議論する道徳へと転換を図っていく。これらの実態を真摯に受け止めながら、道徳教育の要となる「道徳科」の授業の指導改善・充実に取り組んでいくことが、教育基本法にも掲げられている「人格の完成及び心身ともに健康な国民の育成」につながると考える。

（２）本校の教育目標との関連から

本校の教育目標である「よく考える子　さやしい子　たくましい子」を踏まえ、児童の道徳性を養うために、相互の考えを認め合いながら、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の充実と道徳科の授業の質的な向上を図っていく必要がある。道徳科の授業において自他との関わりを通して、児童が自らを振り返り、道徳的価値を多面的・多角的に捉え、判断したり、自分の考えを主体的に表現したりすることで自己の考えがより深まり、道徳性は養われていく。児童の豊かな道徳性を養っていくことが知・情・意・体の調和のとれた児童の育成につながり、本校の重点目標「すすんで学び　よく考え　認め合おう」の具現化を図ることができるものと考える。

（３）本校児童の実態から

昨年の道徳アンケートによると、「親切、思いやり」「生命の尊さ」「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」の内容項目への肯定的な回答が高い。また、道徳の授業が好きな児童は多い。さらに、他者の考えと自分の考えを比べ、よさや違いに気付き、それをみんなでともに学び合う中でさらに思考の深まりが見られるようになった。

一方で、道徳科においては、生命は大切と分かってはいる。自分自身のよさを知り、短所を改めることが求められているなかで、長所を伸ばそうという考えまでには至っていない。また、道徳的価値に照らし自ら判断し、主体的に行動することに関しては、まだ十分とは言えない。明るく素直で、仲良く過ごしているが、相手の気持ちに気付かないこともある。そのため、自分のよさを認めることが大切である。そして、相手の立場に立って物事を考える事や、理由を明確にして相手に伝え認め合おうとすることには課題が見られる。

以上の実態を踏まえ、今年度、本校では、道徳科における重点内容項目を「親切、思いやり」「個性の伸長」「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」と設定した。自立した人間として他者とともによりよく生きていくために、相手に対して思いやりの心をもち、親切にすること、自分の長所を伸ばし、短所を改めることが大切である。道徳の時間に自分の考えを発表したり、友達と話し合ったりすることが苦手な児童がいることから、自分の考えをもつためのワークシートの工夫や、小グループでの話し合いを取り入れるなど、指導法の改善が考えられる。また、郷土を知り、自分の日々の生活は、多くの人々の支えがあることに気付いていくことが、本校の児童の道徳性を養う上で重要な課題であると言える。

３　研究主題、副主題の捉え方

（１）道徳科における「自他との関わり」の重要性について

人間は、決して一人で生きていくことはできない。他者との励まし合い、支え合いなどが必要不可欠である。人間は誰もがよりよい生き方の実現に努めている。その基盤となることが、望ましい自己を確立することであり、他者との関わりを豊かにすることである。そこで、道徳科では、児童が道徳的価値の理解を基に物事を多面的・多角的に考えることができるようにすることが大切である。道徳的価値の理解は、道徳的価値自体を観念的に理解するのではなく、道徳的価値を含んだ事象や自分自身の体験などを通して、そのよさや意義、困難さや多様さを理解することにある。ゆえに、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習など、多様な指導方法を取り入れ、道徳的価値に関わる他者の考え方や感じ方に触れさせながら互いに交流し合う対話的な学びを通して、道徳的価値に対する自分の考え方を多面的・多角的に捉え直し、よさや課題を把握することができる。

（2）道徳科における「自己を見つめる力」について

学習指導要領解説編には、「自己を見つめるとは、自分との関わり、つまりこれまでの自分の経験やそのときの感じ方、考え方と照らし合わせながら、更に考えを深めること」とある。道徳科の授業で最も大切なことは、児童が道徳的価値を自分との関わりの中で考えられるようになることである。人間としてよりよく生きる上で大切な道徳的価値を観念的に理解するのではなく、自分事として感じたり考えたりすることが重要となってくる。つまり、外側から自分自身を見つめ、考えることである。一定の道徳的価値を視点として、「もし、自分だったら…」「自分も同じようなことがあった…」等、これまでの児童自身の経験に基づいて具体的にイメージ推論し、確認することを通して、自分自身の現状を認識し、道徳的価値についての考えを深めていくことができるようになる。このように、自己理解を深めることが、児童自身がこれからの課題や目標を見付けることにつながっていく。

（3）「自己を見つめ、伝え合い、よりよく生きようとする子ども」について

よりよく生きるための基盤となる道徳性をはぐくむためには、児童が多様な感じ方や考え方に接することが大切である。ゆえに、道徳科の授業では、答えが一つではない。ある問題場面に出会った際に、その状況においてよりよい行為を選択できるようにするためには、様々な道徳的価値に、単に一面的な決まりきった理解ではなく、多面的・多角的に理解することが求められる。具体的には、道徳的価値を人間としてよりよく生きる上で大切なことだという価値理解と、それを実現することは容易ではなく、人間の弱さも理解することが大切であるといった人間理解。さらに、道徳的価値を実現したり実現できなかったりする場合の感じ方や考え方は一つではなく多様であるという他者理解も求められる。思考ツールを活用し、道徳的価値を実感を伴って理解できるようにしていく。つまり、物事を多面的・多角的に考え、伝え、多様な考えを認め比較したり、検討したりすることによって、自分と違う立場や感じ方、考え方があるということ、複数の道徳的価値の対立が生じる場面があること等を、自分事として捉えることで児童の道徳性がより一層はぐくまれていくと考える。

4　研究目標

道徳科において、多面的・多角的に考え、伝え合う、対話的な深い学びの指導法の工夫・改善を通して、自他との関わりの中で自己を見つめ、道徳性をはぐくむ指導の在り方を明らかにする。

5　目指す子どもの姿

低学年	中学年	高学年
自分のよさを知り、思いやりをもち、優しくすることができる子ども。郷土に触れる中で、生命を大切にし、生きていることに喜びを感じることができる子ども。	友達や自分のよさを認め、誰に対しても思いやりの気持ちをもち、親切にすることができる子ども。郷土を愛し、生命の大切さを知り、生命あるものを大切にする子ども。	自分の長所を伸ばし、短所を改め陽とする子ども。互いに認め合い、誰に対しても思いやりの気持ちをもち、親切にすることができる子ども。郷土の伝統・文化に親しみ、生命が多くの生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を大切にすることができる子ども。

６　研究の視点

視点１

　自他との関わりを通して、多面的・多角的に考えさせるための指導方法の工夫

視点２

　自己を見つめ、自己の生き方について深く考えるための振り返りの工夫

◎視点１について

　自他との関わりを通して、道徳的な価値に関わる問題を多面的・多角的に考えさせるためには、学習過程において様々な指導方法の工夫をしていく必要がある。次のような視点で研究を進めていく。

（１）学習課題の提示
- 道徳的価値への方向付け…教材との出会い、教師の発問を通して
- 道徳的価値の想起…教材や道徳的価値に関わる日常生活の実態把握
（ICT 活用、アンケート）

（２）考え、伝え、認め合う活動
- 考える必要性のある発問
- 価値を追求していく話し合い…教師の発問、コーディネート
- 道徳的行為に関する体験的な学習…役割演技や疑似体験など
- 学習形態の工夫…個人、ペア、グループ、全体
- 感想の交流、多様性の認め合い

◎視点２について

　自己を見つめ、自己の生き方について深く考えるために、振り返りの工夫をしていく必要がある。次のような視点で研究を進めていく。

（１）道徳的価値を自分事としてとらえさせる振り返り
- 教材を離れるための発問の工夫と時間の確保

（２）自己を見つめ、自己の生き方について考えさせるための振り返り
- 道徳的価値に対する考えの変容が分かるワークシートの工夫
- 自己を見つめ、考えさせるための発問
- 教師の説話
- ゲストティーチャーの活用

７　研究方法

（１）ブロックの研究授業（各学年１回実施、先行授業、検証授業、互見授業等）
（２）全体研究授業（事前研究会、事後研究会を含む）
（３）講師招聘による授業研究会の開催（上学年１回　下学年１回）
（４）検証方法（アンケート調査、自己評価による変容調査）

８　研究組織

校長

教頭

現職教育推進委員会
◎　現職主任 ○　道徳教育推進教師　専門研究部長　ブロック代表各１名
・　研究全般についての運営と計画 ・　各研究部の計画・推進などの検討と調整 ・　授業研究会の計画と運営 ・　実技研修会、伝達講習会の推進 ・　研究のまとめと次年度の課題

学力向上委員会

専門研究部会	
授業研究部	・授業の基本構想の研究 ・授業案の形式検討 ・研究授業（事前研・事後研）の運営と司会
実態調査部	・アンケート原案作成 ・児童の実態把握と変容の調査および分析 ・第１回（５月）、第２回（１２月）
実践記録部	・授業写真や動画撮影 ・研究授業（事前研・事後研）の記録、整理、保管 ・道徳に関する掲示コーナーの作成

ブロック研究部会
低学年　中学年　高学年
・目指す児童の姿の設定 ・授業研究の指導案作成、教具、資料準備 ・道徳に関する掲示コーナーの設置運営 ・道徳的場面の設定

※　「道徳だより」の発行　　（道徳教育推進教師）